

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

文化財保存活用による観光資源魅力向上事業

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

奈良県北葛城郡王寺町

### 3 地域再生計画の区域

奈良県北葛城郡王寺町の全域

### 4 地域再生計画の目標

王寺町はJRで大阪市内から約20分、関西国際空港から約60分という交通の利便性のもと、奈良県西のゲートウェイとして大阪と奈良を結ぶ交通の要衝であり、大阪のベッドタウンという位置づけにもある(王寺町昼夜間比率85.2% H22国勢調査)。ハブステーションである王寺駅は1日5万人の乗降客があるにもかかわらず、商業集積地の京阪神地区や観光地である奈良への通過点、乗換駅となっている。王寺駅の駅利用者数に対する観光客数(定期外客数)の割合は約28%であり、奈良駅のその割合、約45%と比較するとかなり少ない現状である(H26年度奈良県統計年鑑より)。また、RESAS観光マップ(滞在人口)によると、「王寺町に2時間以上滞在した、1年を通した1日平均の滞在人口」の平日と休日の差について、平成26年度では平日の方が500人多いが、平成27年度では休日の方が1500人多くなり、観光振興施策を本格的に始めた平成27年度から観光客が徐々に増加していると考えられる。さらなる町の活性化、賑わい創出に向けて、町独自のさまざまな資源の活用とPRにより観光振興事業を進め、交流人口の拡大への取組が急務となっている。

現在、町の重点観光スポットとして、聖徳太子ゆかりの「達磨寺」、大阪平野から奈良盆地など360度パノラマの絶景が眺められる「明神山」といった町独自の魅力的な観光資源を磨き上げるとともに、「達磨寺」については、近隣にある「信貴山朝護孫子寺」、世界遺産「法隆寺」との連携により、広域観光の目玉として「聖徳太子ゆかりの寺周遊ルート」の確立を進めている。さらに聖徳太子が通った道として、王寺町の「達磨寺」を含んで多くの伝説が残る「太子道」。現在、14市町、寺院により共同で『日本遺産登録』に向けての取組を進めている。併せて、交通アクセスの良さを活かした、王寺駅周辺宿泊滞在型の観光を推進するにあたり、駅周辺の商業活性化による賑わい創出とともに、宿泊施

設の誘致にも取り組んでいる。

2020年の「東京オリンピック」、2021年の「聖徳太子1400年の御遠忌」に向けて、今後ますます増加する外国人観光客をはじめ、多くの人々を呼び寄せるためには、さらに町に眠る観光資源を磨き上げることが必要であり、町のさらなる魅力アップにより、着地滞在型観光施策を強化し、町の賑わい創出、経済産業の発展から雇用の創出へとつなげていくことを目的とする。

【数値目標】

事業	文化財保存活用による観光資源魅力向上事業		年月
	達磨寺 来訪者数	王寺駅（JR・近鉄）の 利用者数（定期外）	
申請時	3,884人	9,451人	H 28 . 3
初年度	4,000人	10,200人	H 30 . 3
2年目	4,500人	10,600人	H 31 . 3
3年目	5,000人	11,000人	H 32 . 3

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

町の賑わい創出、経済発展から雇用創出につなげていくため、文化財保存活用による観光資源魅力向上事業や王寺駅周辺活性化事業を実施する。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

(1) 事業名：文化財保存活用による観光資源魅力向上事業

(2) 事業区分：観光業の振興

(3) 事業の目的・内容

(目的)

王寺町は奈良県西のゲートウェイとして大阪と奈良を結ぶ交通の要衝でハブステーションである王寺駅は1日5万人の乗降客があるにもかかわらず、通過点、乗換駅となっており、大阪のベッドタウンという位置づけで、賑わいの創出に向けての対策が急務であり、今後ますます増加する外国人観光客をはじめ

多くの人々を呼び寄せるためには、町の魅力のPR、観光振興事業のさらなる推進と合わせて、町の重点観光スポットの整備が必要である。交通の利便性を生かした着地滞在型観光施策の強化を進めており、町独自の観光資源として貴重な文化財を活用して町の魅力向上を図り、賑わい創出、経済産業の発展から雇用の創出へとつなげていくことを目的とする。

(事業の内容)

町の重点観光スポットのひとつとして聖徳太子ゆかりの「達磨寺」があり、現在、近隣市町、社寺との広域連携により、魅力向上を図っている。達磨寺は臨済宗南禅寺派のお寺で、本堂や境内にある重要文化財の他に「方丈」という、奈良県指定文化財に指定された建物がある。「方丈」は住職が生活する建物、また、仏像などが安置される本堂の役割を担う建物ともいわれている。この達磨寺の「方丈」は、江戸時代(1667年)に建立され、築後350年近く経過する。一度も大きな修理が行われておらず、建物の特徴からほとんど壁がないために、かなりゆがみが生じ、倒壊の恐れがあるため平成29年度から3か年にわたり、修復を行う。修理費用については町から事業費の一部を補助金として所有者に支出する。

なお、「方丈」については、重点観光スポットという位置づけのもと、修復後は王寺町観光協会が主体となって、定期的な座禅体験やお茶会、簡単な軽食のできる場として、周囲の庭園を含め、風情のある佇まいを演出できる空間を創出するとともに、「方丈」の認知度を高めるため、イベントや講演会などのソフト事業を通じ、修復後の活用等について広くPRを行うことで、達磨寺への来訪者の増加を図る。また、地元住民により結成されている「王寺観光ボランティアガイドの会」による達磨寺定点ガイドなどにより、来訪者への「おもてなし環境」を創出する。

これら「方丈」の利活用及びPR等の取組について、町は王寺町観光協会へ助成を行う。

各年度の事業の内容

・文化財保存活用による観光資源魅力向上事業

初年度)・修復工事着工(仮設・基礎・解体工事)

・達磨寺への来訪者を増やすためのイベントや講演会を開催、周遊観光ツールの整備、魅力的な観光パンフレットの作成、バスツアーの実施、達磨寺ボランティア定点ガイドの実施により「達磨寺方丈」を広くPRする。

2年目)・修復工事(屋根・左官・建具工事)

・達磨寺への来訪者を増やすためのイベントや講演会を開催、周

遊観光ツールの整備、バスツアーの実施、達磨寺ボランティア  
 定点ガイドの実施により「達磨寺方丈」を広くPRする。

3年目)・修復工事完成(耐震・雑工事)

- ・修復後の「達磨寺方丈」で、お茶会や座禅体験など、体験型イベントの実施や記念講演会などを開催。「方丈」PRパンフレットの作成、周遊観光ツールの整備、バスツアーの実施、達磨寺ボランティア定点ガイドの実施により「達磨寺方丈」への来訪PRを強化する。

(4) 地方版総合戦略における位置付け

王寺町創生総合戦略においては、王寺を基点とした周遊型観光の推進による交流人口拡大を図るとともに、外国人観光客についても王寺町の豊かな自然や特徴的な文化財を観光資源として活用する取り組みを進めている。

「達磨寺方丈」の整備は、これらを推進する起爆剤として実施する事業である。また、総合戦略の基本目標として、達磨寺来訪者数(現状 3,571 人→H32 5,000 人)、王寺駅(JR・近鉄)の利用者数(定期外)(現状 9,717 人→H32 11,000 人)を定めており、本プロジェクトは、まさにこの目標の達成に直接寄与するものである。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標(重要業績評価指標(KPI))

事業	文化財保存活用による観光資源魅力向上事業		年月
	達磨寺 来訪者数	王寺駅(JR・近鉄)の 利用者数(定期外)	
申請時	3,884 人	9,451 人	H 28 . 3
初年度	4,000 人	10,200 人	H 30 . 3
2 年目	4,500 人	10,600 人	H 31 . 3
3 年目	5,000 人	11,000 人	H 32 . 3

(6) 事業費

(単位: 千円)

文化財保存 活用による 観光資源魅 力向上事業	年度	H 29	H 30	H 31	計
	事業費計		15,000	29,000	15,000

区分	負担金、補助 及び交付金	15,000	29,000	15,000	59,000
----	-----------------	--------	--------	--------	--------

( 7 ) 申請時点での寄附の見込み

( 単位 : 千円 )

年度	H29		H30		H31		計
法人名	観光業	製造業	観光業	製造業	観光業	製造業	
見込み額	3,000	1,000	3,000	1,000	3,000	1,000	12,000

( 8 ) 事業の評価の方法 ( PDCA サイクル )

( 評価の手法 )

事業の KPI である達磨寺来訪者数について、実績値を公表する。また、当町の総合戦略策定委員 ( メディア事業者、金融機関など ) により、事業の結果を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良することとする。

( 評価の時期・内容 )

毎年度末 ( 3 月 ) に外部有識者 ( 総合戦略策定委員 ) による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する予定。

( 公表の方法 )

目標の達成状況については、検証後速やかに王寺町公式 WEB サイト上で公表する。

( 9 ) 事業期間 平成 29 年 4 月 ~ 平成 32 年 3 月

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置  
該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

王寺駅周辺活性化

事業概要 : 奈良県の西和地区の拠点として、公共交通の結節点でもある「王寺駅周辺」の活性化を図るための以下の取組を行う。

- ・新たな商業・業務 ( 起業支援、テレワーク等 ) ・居住・医療・福祉機能の集積など、駅周辺での都市機能の集約を図る。
- ・宿泊施設の誘致により、観光資源を周遊する滞在型観光を促進す

る。

- ・大和川ふれあい広場やジョギングコースなどを活用した健康増進、  
広域交流による賑わい創出

実施主体：王寺町

事業期間：平成28年度～平成30年度

## 6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日まで

## 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

### 7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

事業のKPIである達磨寺来訪者数や王寺駅（JR・近鉄）の利用者数（定期外）について、実績値を公表する。また、当町の総合戦略策定委員（メディア事業者や金融機関など）により、事業の結果を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良することとする。

### 7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

毎年度末（3月）に外部有識者（総合戦略策定委員）による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する予定。

### 7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

目標の達成状況については、検証後速やかに王寺町公式WEBサイト上で公表する。